

(1) 本年度の N I E 活動の概要

研究指定校 1 年目ということで、手探りで N I E を行ってきた。基本は本校の「探究基礎」「探究」の授業でのみ新聞を活用しているのが現状である。「探究基礎」は探究活動に必要な「ものの見方や考え方」「コミュニケーション能力」「論理的思考力、表現力」を養うことが目標とされており、N I E 活動の目標もこれらの点を補完することを目的に行った。生徒にこれらの力はある程度身についたと思われる。

(2) 本年度の N I E 活動の取り組み状況（4 月時点）

本校は全校生徒 6 0 5 人、5 クラス×3 学年規模の学校である。進学率が高く、大学受験指導型の授業が展開されている。また Wi-Fi 環境が整備され、1 年生はタブレットを授業中でも使用している。2 0 1 7 年から「探究基礎」「探究」を始め、新聞を活用する機会が増えてきている。「探究基礎」では情報の信憑性を問う、現代社会を知るといった授業が行われており、それらの単元で新聞を利用している。また「探究」でも情報の収集・整理・分析に新聞が利用されている。よって指定校 1 年次と 2 年次はおもに N I E を「探究基礎」「探究」の授業で行っていく。本年度は「探究基礎」の一単元で新聞を利用させてもらった。

(3) N I E 活動の狙い（育てたい力）

本校は 2 0 1 7 年度より、「探究基礎」「探究」の授業を行っている。1 年次は主に、当たり前と思っていることを定義する・情報の信憑性を問う・現代社会を知るといった授業を行っている。今回の現代社会を知るといった授業では以下の 3 点の力を育てるために狙いを定めた。また、狙いを絞るために記事を選ぶ条件も示した。

- ① 互いの意見を尊重しながら探究する
- ② 他者の意見を聞いてさらに社会の問題に対する見識を広げる
- ③ 記事の説明をする中で、さらに問題を掘り下げて理解する

(4) 全校での取り組み

信濃毎日新聞・読売新聞・朝日新聞・日本経済新聞・産経新聞・毎日新聞の 6 紙を学校に届けていただけるようになり、社会科教室において自由に閲覧できる場所を設置している。また、図書館にも信濃毎日新聞・読売新聞・朝日新聞が 1 年を通して閲覧できる場所がある。図書館は昔から閲覧できる場所であったため、生徒の認知度も高く利用している生徒も多い。しかし、社会科教室の閲覧場所は認知度も低く、場所も生徒が気軽に立ち寄れる場所ではないので、今後、全校生徒が新聞に気軽に閲覧ができる場所の確保が必要である。

(5) 公開授業などの活動内容

単元名 「探究基礎 11 現代社会を知ろう」（1 学年普通科・探究）

① 単元設定の理由と概要

人は普段、自分に関係の無いことにはあまり関心を持たないのが普通である。「情報化社会」と言われればそう思うし、「グローバル化社会」と言われればそう思うし、「少子高齢化社会」と言われればそう思うといった感じで、結局、「どのような社会に生きているのか」ということについて判断できるほどのものを知らないのが実情だ。

そこで今回は、今後の探究テーマ設定にも役立つように、新聞記事を活用して、「現代社会の抱える諸問題」について調べ、自分の意見を発表し、意見を交換し合う、本単元を設定した。

② 単元の目標

- ・自分の選んだ記事の内容について、自分なりの意見・考えをまとめ、発表する。
- ・友だちの発表も参考に、今後の探究テーマにつながりそうな記事を選ぶ。

③ 本時の展開

＊準備：新聞記事の中から、自分の関心を引いた記事を1つ選び、それを切り取って持参する→記事の条件

- ・解決することが求められている現代社会が抱える問題を扱っている
- ・その問題に対するさまざまな意見がある
- ・解決策はすぐには見つからない問題
- ・自分もその問題を解決するべきだと思える問題

指導 内容	生徒の活動	時間等
◎手順 1 ・自分が持参した記事について選んだ理由と、その問題にどのような意見があるかをまとめる	◎ 5 ～ 6 人のグループで机をつなげて着席 ◎手順 1 を行う	◎ 5 分 ◎ 10 分
◎手順 2 ・グループで記事を回し読み ・興味のある記事を書き出す	◎手順 2 を行う	◎ 10 分
◎手順 3 ・自分の選んだ記事について発表	・友だちの発表はメモ	◎ 15 分
◎手順 4 ・掘り下げると面白そうな記事を選ぶ。 ・グループで話した内容を発表	・グループの発表をメモ	◎ 10 分 約 50 分

ワークシート

探究基礎 11 現代社会を知ろう

私たちが生きている現代の社会はどのようなものでしょうか。高校 1 年生の君たちは授業で「現代社会」を習っていますが、普段、自分に関係の無いことにあまり関心を持たないのが普通ですから、「情報化社会」と言われればそう思うし、「グローバル化社会」と言われればそう思うし、「少子高齢化社会」と言われればそう思うといった感じで、結局、「どのような社会に生きているのか」ということについて判

断できるほどものを知らないというのが実情ではないかと思います。

そこで、この授業では、「現代社会の抱える諸問題」について調べたり、自分の意見を発表したりしていきます。

1 事前課題

- ここ1～2週間の新聞記事の中から、次の条件に当てはまり、自分の関心を引いた記事を1つ選び、それを切り取って学校に持参する。

○ 記事の条件：

- (1) 解決することが求められる現代社会が抱える問題を扱っていること。

現代社会が抱える問題＝身近な地域、日本全体、世界の地域、世界全体のいずれかの範囲に関わる問題

- (2) その問題に対するさまざまな意見があること。

- (3) 解決策がすぐには見つからない問題であること。

- (4) 自分もその問題を解決すべきだと思える問題であること。

* 記事を選ぶ際に参考になる分野

経済、人権、労働、平和、貧困、生命、健康、医療、介護、国際関係、地域社会、若者 等

* 記事を選ぶ際、目を通すべき新聞の面

1面、1面下のコラム（「天声人語」「編集手帳」等）、社説、投書欄、社会・経済面、特集記事 等

2 自分が持参した記事についてまとめよう

- なぜその記事を選んだのか。

- 自分は今の段階で、この記事の問題に対してどのような意見を持っているか。

3 グループで、持ち寄った記事を回し読みしてみよう。

- 興味をもった記事の見出しを下に書き出そう。

4 自分が持参した記事について、2でまとめたものを発表しよう。

- 友だちの発表のメモを取ろう

5 グループ討議 掘り下げていくと最も意義のありそうな記事を1つ選ぼう。

- 「最も意義がある」と判断した理由を2つ以上挙げてみよう。

- 選んだ記事の内容を要約してみよう。

6 発表 グループごとに、5で話し合った結果を発表しよう。

- 他のグループが選択した記事の中で面白かったものをメモしよう。

(6) 児童・生徒の反応

1年生全員にスクラップブックを配布し、夏休みの課題として、1週間に1つのペースで、自分の興味のある分野の記事をスクラップさせた。他教科の課題が多く、あまり熱心には取り組まないだろうと考えていたが、予想に反して多くの生徒がしっかりと取り組み、記事の要約や問題の解決策などもメモ書きしていた。今回の公開授業では、そのスクラップブックを参考にグループワークを行ったので、意見も活発に交わされ、今後の探究にも生かせそうな内容の話し合いができていた。

[生徒のノート]

2 自分が持参した記事についてまとめよう

○ なぜその記事を選んだのか。

- ・現在、若年層の人は政治や経済について「大人の世界」ではなく「自分達も加わる」という意識に変わリッがある。
- ・大人だけでなく、子供も参加する世界情勢にリッがある。
- ・地球温暖化は数十年問題にまでなっているが、大気汚染化が原因のため。

○ 自分は今の段階で、この記事の問題に対してどのような意見を持っているか。

- ・子供が投票をボイコットしてまで、意見を言っている世界情勢を変えるべき。

3 グループで、持ち寄った記事を回し読みしてみよう。

○ 興味をもった記事の見出しを下に書き出そう。

- ・地球「中々」若者の声で
- ・非白人議員に「国へ帰れ」
- ・英語民間試験見送り
- ・温暖化で穀物価格高騰
- ・増え続ける第三者委員会

4 自分が持参した記事について、2でまとめたものを発表しよう。

○ 友だちの発表のメモを取ろう

- ① 自分達の考えに深く関わってくる。世間一般に拡散する前に制度の矛盾をいかに解決するか。
- ② 温暖化 → 災厄 いたから。台風 14 号の被害で経済上早く組織リスク
- ③ 大統領が人権差別しているのに、驚いた。人権差別の歴史的な問題で現代にわたる問題が解決されない
- ④ 学校に関する（身近な）問題。いじめによる自殺、自殺した親族の要望への無視、第三者委員の役割のいかに変えている。

5 グループ討議 掘り下げていくと最も意義のありそうな記事を1つ選ぼう。

○ 「最も意義がある」と判断した理由を2つ以上挙げてみよう。

- ・学校に関連しており、身近だから
- ・意見しやすく、考えやすい、
↳ 解決策がある。

○ 選んだ記事の内容を要約してみよう。

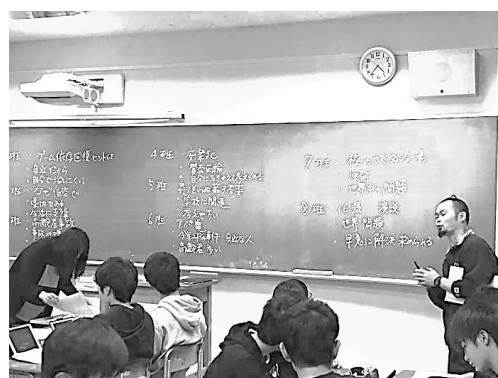
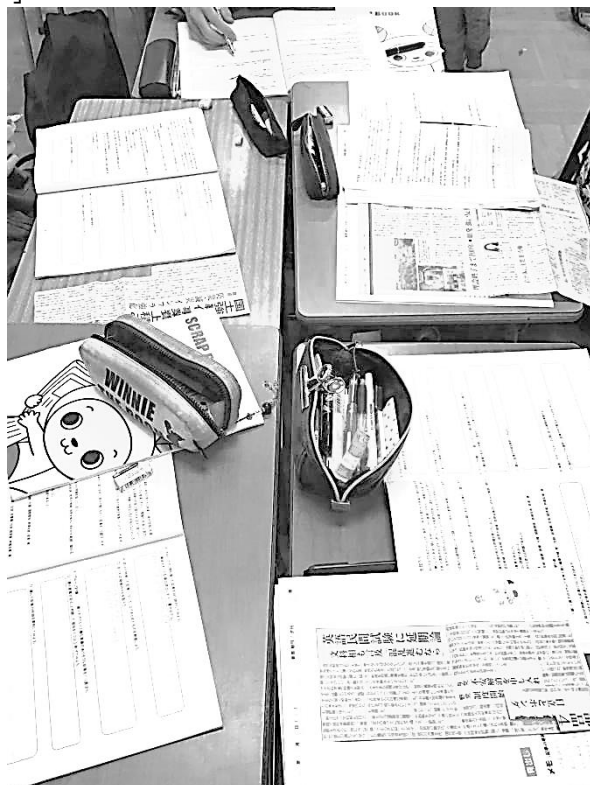
全国小中学校の事故や事件についてのアンケートで、自殺や事故を巡る第三者委員会への被害者・家族からの不信感がつのるという記事。いじめによる自殺や事件について遺族の要望は一切無視、また第三者委員会に市役所顧問弁護士が就き、公正、中立ではない立場から市側に有利な結論を出せというところ、市役所が見える。

6 発表 グループごとに、5で話し合った結果を発表する。

○ 他のグループが選択した記事の中で面白かったものをメモしよう。

いじめ被害の根拠は？ ・身近・目撃者の多い	なぜ低学年で？ ・身体・経済的な障	高齢者事故について ・事故件数増減・自殺リスク
事故死 ・被害者側 ・自分におきかえり	アパ電 ・今年2月の事件 - 関子 ・高齢者に多い	校の対応分岐 ・原因の問題 ・世界各国
		16歳 液説 ・世界規模の問題 ・早急に解決求められている

[生徒の様子]



(7) 成果と課題

新聞から記事を選び、内容を端的に他者へ伝えるという一連の流れが、今後、グループごとに探究課題を設定し、発表し、論文をまとめるという活動の中で大いに役立つはずである。また、日々のニュースに関心を持つ意識付けができたので、探究課題のテーマ決めもスムーズに行え、かつ独創的なテーマ設定ができるのではないかと期待している。